

釜ヶ崎講座ニュース NO 41

釜ヶ崎講座

大阪港郵便局私書箱40号

大阪市西成区萩の茶屋1-9-7

釜ヶ崎日雇労働組合気付

事務局 090-2063-7704

Mail kamakouza@cwo2.bai.ne.jp

<http://cwoweb2.bai.ne.jp/kamakouza>

<http://blogs.yahoo.co.jp/kamagasakiouza>

会員の皆さん、読者の皆さん、そして釜ヶ崎講座に日頃から御支援くださっている仲間の皆さん。久方ぶりの「釜ヶ崎講座ニュース」をお届けします。

一昨年 of 東日本大震災とそれによって引き起こされた福島原発の爆発、放射線モレは、そこに住み暮らす人々に言い知れぬ甚大な惨禍を今日なお与え続けています。「脱原発」めざし、全国に運動は大きく広がるなか、一方では巧妙な宣伝にのって「原子力産業」拡張の動きが進められているのが現状です。そして、あろうことか、反原発運動に対する規制、弾圧が強まっています。釜ヶ崎講座は、さる3月10日に大阪市内で開かれた「さよなら原発大阪2万人行動」に参加しながら、脱原発の思想の確立が、人々の貧困と格差を消去していく根幹の1つであることを感じました。今年も釜ヶ崎と市民、そして、あなたとを結んでいく講座として微力ながら前進し、皆さん1人、1人の社会活動に寄与できれば、と考えさせてもらっています。どうか、本年もよろしく願いいたします。また、日頃のご支援に深く感謝申し上げます。

1.「第19回釜ヶ崎講座講演の集い」

開催いたします!!

釜ヶ崎講座は、来る4月13日、エルおおさか南館101号室にて「西成特区構想」とはいかなるものか!第2弾～「西成特区構想」を活用して何が実現できるのか。釜ヶ崎の何が変えられるのか～ 一有識者座談会提案項目の具体化にむけた現状報告と討論～と少しタイトルは長いのですが、第19回の講演のつどいを開催いたします。多くの皆さんの御来場をお待ちしております。「特区構想」が出されて1年以上が経過、社会医療センターの縮小、移転の問題などに代表された労働者、住民の生活と権利が根底から脅かされかねない中、2013年度の予算化も一部ではだされて、具体的動きとなりつつあります。今回は講師に釜ヶ崎で長年活動、社会風刺の漫画も描かれる、ありむら潜さんほか、計3人に

お願いして、「特区構想」をうけて、釜に住む側からの真の要望とは何か、実現させていく中身とは何なのか、を語ってもらいます。ありむらさんは、今日の状況は「有識者座談会」提案を受けての、我々住民側がアクションを起こす段階だと主張され、労働、医療、福祉等、各部門での実現の中身、方向を示されたら、と抱負を語っておられます。問題提起をうけて、皆さんと共に学習を深めたいと思います。

日時 2013年4月13日(土) P・M 6時30分開演 (6時開場)
講師 ありむら潜さん(西成特区構想有識者座談会委員・「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」事務局長)
寺川政司さん(西成特区構想有識者座談会委員・近畿大学建築学科准教授、case. まちづくり研究所代表)
西口宗宏さん(萩之茶屋振興連合町会第6町会会長・サポーターティブハウス おはなオーナー)

会場 エル・おおさか南館(10F)101号室
京阪・地下鉄谷町線「天満橋駅」より西へ300m、「北浜駅」より500m
資料代 500円

ご案内は以上です。

2. 「第43回釜ヶ崎越冬闘争」貫徹される!!

釜ヶ崎講座も諸行動に参加、恒例の2013新春釜ツアーが30名の参加で挙行される!

2012年12月23日の「支援連帯集会」をかわきりとして、正式には12月28日の越冬突入集会から1月7日までの「第43回釜ヶ崎越冬闘争」が当該、支援者、相互の連帯の力で闘われました。「越冬闘争」とは、釜ヶ崎現地での行政の窓口が閉ざされる年末・年始のあいだ、冬の寒さから仲間の命を自らの団結した力で守りぬき、次の闘いを準備する闘いであり、釜ヶ崎では42年間にわたって取り組まれてきました。今年の越冬闘争の特徴は、低投票率ながら、再度、自民党政権が復活、「弱者、貧困層」といわれる人々への生活締め付けが強まる可能性があること、「西成特区構想」の動きのなかで、釜の労働者、住民にこれも暮らしに不安が広まっていること、また社会的排除の風潮の強まりのなかで、大阪梅田にて野宿していた仲間が少年らの手によって襲撃、虐殺されたこと、こういった諸情勢のなか、取り組み、貫徹されました。釜ヶ崎講座は「支援連帯集会」での連帯あいさつ、12月30日は講座の呼びかけに6名の人が結集していただき、「人民パトロール」

で釜ヶ崎地区内まわり、そして「医療パトロール」も最後までやりぬきました。また、明けて新春、2013年1月3日には、釜ヶ崎日雇労働組合事務所に総勢30名の「釜ヶ崎ツアー」のメンバーが集結して、今年も現地在住の水野阿修羅さんの案内で「西成特区構想」問題を織り交ぜながらの、釜地域内の充実したツアーでした。当日、御参加の皆さん、そして案内役の水野阿修羅さん、紙面をとうして御礼申し上げます。それから、12月30日の行動御参加の皆さんもありがとうございました。そして越冬闘争のさなか、1月4日には、釜ヶ崎反失連、釜日労を中心に支援者をふくんだ70名の仲間で大阪府、市へ就労問題を軸とした「要望書」提出行動―「お礼参り」が行われ、講座も連帯し参加しました。以上越冬闘争関連の報告でした。

3. 昨年12月8日に「第18回釜ヶ崎講座講演の集い」 開催される。

―エル・おおさか会場に50名つどい、学習、討論深める―

皆さん、昨年12月8日釜ヶ崎講座はエル・おおさか701号教室にて「西成特区構想」とはいかなるものか! 医療・福祉・生活保護を中心に―

釜ヶ崎の労働者・住民の命と暮らしは守られるのか」と題して「第18回講演の集い」を開催しました。講師は「有識者座談会」委員でもあった医療福祉ジャーナリストの原昌平さんでした。原さんは問題の提起の中で有識者座談会の議論内容を紹介、就労問題では、特別清掃事業は解消ではなく必要なものとして評価した。また仕事づくりに関しては、民間やNPOが主体の社会的企業の確立のために、アイデアや人材の蓄積が必要。そのために行政の資金援助が重要。そのほか暮らし・医療などのジャンルではこれまでの西成独自のそれぞれの機能維持こそが重要と要約を語りました。質疑応答の場では釜の現場労働者の人が「「特掃」は釜ヶ崎では生きていくための意味合いを含んでいること。「特区構想」で特掃もシェルターも南港臨泊も無くなるんじゃないか」と不安の声がでていることを述べました。この質問にたいして原さんは「問題を解決していくには、各分野の会合などを通じて、皆さんの運動側のほうから提案し、課題の焦点化をはかっていくのも大事では」と答えました。会場からは、その他、橋下市政にたいする不信の声など多くの御意見をもらいました。釜ヶ崎の就労問題を柱とする問題解決の歴史は単調な道のりではなく、反失連など積年のたたかひの歴史の道のりでした。今回の第18回講演の集いで議論の成果をもとに講座は引き続き学習の場の保障に取り組むことを考えています。皆

さん、当日のご参加、有難うございました。講師の原さん、当日は有難うございました。
以上、講演の集い報告でした。

4. 「3・10 さよなら原発おおさか行動」に参加

釜ヶ崎講座はさる3月10日、大阪中之島公園付近にて広範な団体で開催された「3・10 さよなら原発おおさか行動」集会に参加、釜ヶ崎反失連、釜ヶ崎日雇労組の隊列とともに反原発を訴えてナンバまでデモしました。集会には福島からかけつけた多くの仲間が力強く全国の原発の廃炉を訴えました。デモ行進では釜日労、反失連の仲間が被曝労働を押し付ける、鹿島建設元請けの違法行為を訴えながら、国の責任とともに、除染、がれき撤去等の作業に日夜あたる下請け労働者への安全確立をアピールしました。

以上3・10集会の簡単な報告でした。

最後にお知らせです。

さて、いつも釜ヶ崎講座に御支援頂きまして、有難うございます。今回、振り込み用紙を同封させて頂きました。年間会費、カンパを宜しく願いいたします。

事務局

以上。